

## 平取ダム建設予定地付替道路工事箇所に関する現地調査結果

### － 参加者の意見・感想（抜粋） －

日 時 平成１９年６月６日（水）９：００～１３：３０

場 所 平取ダム建設予定地周辺

内 容

[付替道路の工事の着手時期について]

- ・本年度の付替道路工事は、大体９月ぐらいには現地の工事に入りたいというのが今の予定である。それは確定ではないので、平取ダム地域文化保全対策検討会との進行具合を見て柔軟に対応していきたい。

[カムイワッカについて]

- ・現在のカムイワッカは、草っ原のようになっていたので、場所の手入れをしておかなくてはいけなかったのではないかと感じた。
- ・カムイワッカの水については、非常に局所的な現象なので、事前に工事の影響を精緻に予測することは難しい。
- ・水の流れの調査というのはかなり難しいのではないか。大きな川の流れだと分かるだろうが、あのような細い流れは実際にどこからどう潜って出てきたのかは、なかなか分かりにくいのではないか。
- ・工事の結果を見ながら、それへの対応を考えさせていただきたい。
- ・以前、北海道ウタリ協会平取支部との協議の中でカムイワッカが枯渇した場合の可能性を考えて、その場合にはポンプアップ等のようなことも含めて水を枯らさないということだったと思うが、そのような捉え方でよいか。
- ・カムイワッカの水は地下水である。地下水ということは万が一、工事によって枯れたかどうかを調査する際には、その年の降水・降雪量に大きく関連してくるので、慎重に調査をしなければならない。きちんとした調査を行った上で水の確保ができるように考えている。今の段階で、いきなりポンプアップをするということは断定できないが、何らかの形で水が流れる方法を考えたいと思っている。

[番兵小屋跡の調査について]

- ・今日、視察した場所というのはカムイノミが行われていた場所ということで、重要な場所である。その重要な場所に、ピアは当たらないが、カムイノミ場の上を道路が通るということを目の当たりにした。また、生活をしていたということは、小屋が建っていた場所だけではなく、その周辺も（かつての）生活の敷地であったという可能性はあると考えられる。そのため、もう少し調査班の方で木や草を剥ぐなどして、昔の痕跡がないか調査してもらえないか。
- ・（調査班では）土を掘り起こす技術は無いため、埋蔵文化財の方でお願いできないか。
- ・埋蔵文化財は近代以前の史料が対象であるが、今後、協議をしながら調査を行い、場合によっては考えなければいけない。

- 考古学的な発掘を行うためには色々な手続きがあり、調査段階もA・B・C調査とあって、そういう段階の位置づけからカムイノミの場所については調査されていない。工事を行う際には、掘削する段階で十分注意を払いながら行いたいと考えている。
- (何か昔の痕跡が) 出た場合はどうするか、それがどういうものなのかということは、また、検討会で話すべきだと思う。そのためには、工事が始まってからでは遅くて、やっぱり始まる前にやって、実際になければなかったで良い。もしあった場合に、どういうものがあったのだとか、そうなった場合では新たな観点がまた出てくるような気がする。だから、そこを工事が始まってからやるというのはどうかと思う。
- 我々の祖先がここで家を建てたところが完全に水没してしまうということ、精神的に私たちは重たいものを感じるので、そのことでせめても住宅復元ということではなく、またどんなものが出てくるかどうかは別として、その姿勢を見せてもらって私は納得しようかなと、このような思いもある。
- 番兵小屋、作業小屋というものは建築としては貴重なものではないかもしれないが、伝統的な精神文化を継承していた人が、生活様式の変化の中でカムイノミを受け継いでいる、そういう入り組んだ様子を証明する、歴史的には非常に貴重なことである。そういう意味で、できるだけ詳細に状況を把握したいということで、今、進めているところである。それが対策を考えたときにも材料となるのだろうと思う。実際に土をどのように調査するかということは要検討事項である。
- 多分番兵小屋には冬は住んでいなかったと思うが、カムイノミ、アイヌ文化を継承することが行われていたことは間違いない。
- 考古学的な発掘調査は必要かどうか、文化財課としてどう考えているか。
- 埋蔵文化財の事前協議は、ダムに関しては平成14年からして、大方8～9割、協議は済んでいる。残っているのは8区のところの民地がわずかに残っているという中で、今日見た付替道路部分においては、今朝バスが一番最初に止まったところのあたりが遺跡になっている。そちらも当然掘削の対象になっているので、その工事が実施されるとなれば埋蔵文化財の発掘調査はしなくてはならなくなる。付け加えて、先ほどあった話を少し細かく説明すると、北海道教育委員会でも、事前協議の中では基本的には工事をして構わないことになっている。今日の話の中で、仮に掘ってくださいとか剥いてくださいという話になったときには、道義的な問題として、掘ったものをどこでどう報告するかという問題はまた別に生じると思う。
- やはり現地に行くといろいろと思いが出てきて、よかったと思う。一つお願いしたいのは(コナラの枯木が残っている)ヌサに向かってカムイノミをしていた場所について、大体ここら辺ではないかという話だったので、できればそこも位置を特定してもらえればありがたい。それは伝えてもらえるべきものが伝えてもらえなかった時期、それを掘り起こして、自分らは伝えてもらえなかったことを知るとい、子孫としての役目もあると思うので、できる限り協力してもらえればと思う。

[全般について]

- 資料上でカムイノミ1, 2, 3となっているが、このように特定された場所については精神文化としての原名があるのならば、きちんとした固有名称を使用してほしい。
- ダムが出来るといことは圧迫感があるし、精神文化に関わる場所のすぐ近くに建つということで、

精神文化、アイヌ文化伝承の場に直接関わる部分が工事に関係している。そのことを我々もウタリ協会会員さんやウタリの方々に理解してもらわなければいけないので、開発局や行政、議会の方とも相談して進め、納得できるような形をつくりあげなくてはならない。

- いま話されたことが施工者に理解していただけて、我々との協力関係で進んでいくことを願う。
- 我々が危惧しているのは、見切り発車で工事が進むというので、そういうことはして欲しくない。ある程度、祖先の方達が納得する形を出して、了解のもとで工事を進めて欲しい。開発局、ウタリ協会、双方にとって良い方向になるように話し合いたい。
- 今日見学した場所は以前にも見たことのある土地ではあるが、実際に橋を含めて施設が設置されたときに、位置というのが特定された場合の具体的なイメージを持つことができたということはあったけれども、それ以上に今日はここでこうやって工事を進める側とアイヌ民族の立場でそれぞれの議論が深まっているという様子を拝見できた、大変意義ある機会だと思う。
- 今回入ったばかりなので、勉強不足は否めないが、実際に現地を訪れて見てみると、やっぱり迫りくるというか、いろんなことが思い起こされるので、今後も勉強して、検討会に役立つように頑張りたいと思う。
- 先日ダム所長からかなりの分野の資料をいただき、いろんな角度から調査をされているということをつくづく感じ、今日も感心した。もちろん植物に関して、付替道路が建設される予定の土地には、樹齢が300年、400年の樹木があるようだということも、現地へ行かなかつたら私どもは全然わからなかったのも、それらも貴重だなということを再認識した。今後またいろんな部分で研究とか調査について、この検討会で勉強させていただきたい。